



人と動物が共存する社会をめざして

～人と馬の絆^{きずな}による教育・研究・社会貢献^{こうけん}～

ウマとの関わり >>>

- 1941年、「軍馬^{じゅう い し}の獣医師^{おび ひろ こう どう じゅう い}育成」を目的に、帯広高等獣医学校（後の帯広畜産大学^{おび ひろ ちく さん だい がく}）を設立
- 設立の背景から、十勝における畜産業が酪農^{らく のう}中心になった現代においても、馬に関する教育・研究は重要なものとして位置づけ
- 特に、獣医学教育の国際認証（EAEVE）を取得するにあたり、馬に関する教育プログラムは重要
- 馬を用いた教育・研究・社会貢献を推進するため、2014年に「馬介在活動室^{うま かい ざい}」を設立
2024年、馬産業に携わることを希望する学生を対象とした「総合ウマ科学教育プログラム」を開設



札内川河川騎馬パトロール^{さつ ない がわ き ば}



2024年11月から、北海道開発局帯広開発建設部との連携^{れん けい}により、十勝の馬文化継承^{けい しょう}や河川管理、防災活動の向上を目的として河川騎馬パトロールを実施^{じっ し}しています。

馬上からの高い視点による視認性の向上や、車両が走行出来ない場所の確認が可能になることが期待されており、その効果と課題を検証しました。

利点

河川環境^{かん きやう}の把握^{は あく}や不法投棄^{とう き}の発見などの巡視^{じゆん し}で遠くまで見渡^{み わた}すことが可能

課題

馬が川の音や慣れない環境^{おどろ}に驚いて引き返す場面もあり、馬の取り扱いに課題^{あつか}

今後も継続的にパトロールを実施、検証を進めることとしています。

ちくだい馬フォーラム^{ちく だい うま ほうらむ}



帯広畜産大学では、一般市民の皆さまを対象に、本学の馬に関する教育・研究・社会貢献活動を紹介し、馬と人との関わりについて理解を深めていただくことを目的として、2013年から「ちくだい馬フォーラム」を開催しています。

今年で11度目の開催となる「ちくだい馬フォーラム2025」では、屋外での馬術ショーや乗馬体験、展示と、専門家による講演会「レースを引退した馬にも活躍^{かつ やく}の機会を！—引退競走馬の利活用推進—」の2部構成で実施し、第1部・第2部あわせて約740名の方々にご来場いただきました。

